

VOL.33 2015 SPRING



表紙：10号館総合研究棟（2014年3月まで基礎工学部校舎として利用され、同年4月より現在に至る）

NODA ARCHITECTURAL ASSOCIATION
The Alumni Association of Science
Since 1998.
of Tokyo University

「流山新市街地地区小中学校併設校の現場見学会」が開催されました

平成 26 年 11 月 8 日

高安 重一（1989 年卒）

11月8日（土）、野田建築会主催で（仮称）流山新市街地地区小中学校併設校の現場見学会が開かれました。

設計は公開コンペで選ばれた、理科大でも長く教鞭を執られていた小嶋一浩先生のシーラカンズ&アソシエイツ（以下 CA_t）です。その設計のプロセスや現場の様子は GA JAPAN 誌でも連載されており、竣工前から話題になっている現場の見学会です。

この貴重な機会は、施工の大林組現場所長が 1986 年卒 OB の田中雅人氏ということもあり、実現の運びとなりました。

当日は流山おおたかの森駅に集合でしたが、つくばエクスプレスの車窓から現場が垣間見られることもあり、既に車中から期待が高まっていました。

今回は希望者多数で多くの方にお断りをする事になってしまいました。先着順で理科大の 1 年生 2 人、OB18 人の参加となりました（やはり注目の現場です！）。

まずは仮設事務所に移動して、現場でも随時作成中と思われる 1/50 の模型を前に概要をご説明いただき現場に移動です。

学校は 2015 年春の開校ということで、現場は躯体工事完了間近で（一部ボイドスラブの配筋が見られる中）、サッシや設備機器の取り付けなどと平行して、防水工事、塗装工事など一番アクティブな状況を見ることができました。

この学校は小中学校と地域交流施設による複合施設ですが、「遊びのにわ」「森の庭」「空のにわ」「風のみち」と名付けられた外部空間を取り込みながら、オオタカの森との連続性を保っています。また内部空間においてもクラスルームとオープンスペースの配列が、行き止まりのない、流れるような空間を生み出しています。

そして体育館は二層構成となっており、この大空間を成立させるためのプレキャスト&プレストレストコンクリート梁の連続する空間は圧巻で、体育館であるのに神聖な雰囲気さえ感じられました。

現場をご案内いただいた CA_t の大村氏によると、約 22,000 m² の延べ床面積は CA_t でも最大規模とのことで、大変力を注いでいるとお話でした。また竣工後の内覧会も野田建築会の皆さんにもご覧いただきたいという、嬉しいお話もいただきました。設計、施工の皆様方には大変お忙しい中、このような機会を作っていただき感謝申し上げます。

今回の見学会は OB も多く参加され、先輩や後輩と一緒に回りながら見学の合間に懐かしい話や近況の話になり、さながら OB 会のように楽しい機会でした。そして見学後はこれも懐かしい柏のホワイト餃子に場所を移して懇親会となりました。また次の機会を楽しみにしています。



外部から見学



L字壁で囲まれたクラスルーム



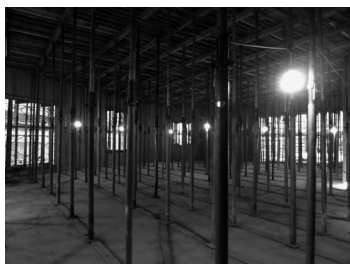
クラスルームの間のオープンスペース

屋根に空けられた開口



サポートの残るランチルーム

眺めの良い3階多目的教室



二層からなる体育館の1階



流動的な廊下~オープンスペース



仮設事務所での 1/50 模型



仮設事務所での説明風景 (1)



仮設事務所での説明風景 (2)

(仮称) 流山新市街地地区小中学校併設校建築その他工事

工事概要
 工事件名 (仮称) 流山新市街地地区小中学校併設校建築その他工事
 工事地番 千葉県流山市市野谷 625-1
 工事住所 同上 工事地番と同じ
 建築主 独立行政法人 都市再生機構 東日本賃貸住宅本部
 所轄工事事務所 東日本工事事務所
設計・監理 シーラカンス アンド アソシエイツ 一級建築士事務所
施工主 [建築] 株式会社大林組 流山小中学校工事事務所
 (別途工事) [機械設備] 大成設備・エルゴ事共同企業体
 (別途工事) [電気設備] 株式会社 ミライト
 (別途工事) [ガス設備] 京和ガス株式会社
工期 2013年9月21日～2015年2月28日(17ヶ月)
建物概要
 用途 小学校・中学校・集会場
 敷地面積 34,026.56㎡
 建築面積 10,953.05㎡
 延床面積 22,043.41㎡
構造 RC造一部S・PC造
階数・高さ 地上3階 最高高さ 1FL+18,268m
仕上げ概要
 屋根 ウレタン複合塗膜防水+押えコンクリート
 外壁 RC打放し+撥水材
 内部 床 ビニルシート、リノリウムシート、タイルカーペット、フローリング他
 壁 RC打放しEP塗装、石膏ボードEP塗装、タイル他
 天井 木毛セメント板、石膏ボードEP塗装、ケイカルボードVP
 塗装他

設計概要
 建物の理念
 ・新しい教育環境、地域施設との複合の提案
配置計画
 ・通風・採光に配慮し、前面道路から建物の軸線が60度振れた南北配置
 ・都市の緑から市野谷の森へとつながる中庭の連続、植栽計画
 ・教職員協会やワークショップ、設計ワーキング等、施設に対しての関心が高く、それに応えられるデザインとしている。
校舎について
 ・オープンスクール形式の小学校、オープンスペースを囲い込む形式の中学校
 ・内と外を等価に扱う開放的な計画、夏季の通風を考慮して全面折戸を採用
 ・地域の人々が使用する「ゾーン」と学校ゾーンを区分けできる計画
 ・L型の壁を用いた新しいスクールタイプ
 ・大型建具や家具によってオープンスペースのアクティビティを誘発する空間
 ・教室を雁行配置にすることにより、教室同士が対面とならないよう配慮するとともに、2クラスに1枚設け建具で教室間の伝播を調節できるよう配慮している
構造システム
 ・自由な空間構成を確保させるよう、ポイドスラブを採用し、RC耐震壁付ラーメン構造となっている
 ・屋内運動場は、大空間の2層構造とし、3F床スラブには、PC床板を採用し屋根はS造としている

退任のご挨拶

前理工学部建築学科 永野研究室 助教 肥田 剛典



2011年4月から2014年10月まで、理工学部建築学科・永野研究室の助教をしておりました、肥田剛典と申します。今思えば、理科大で過ごした3年半という年月はとても短く、あっという間に過ぎてしまったように思います。これは、理科大で過ごした日々が楽しく実りの多いものであり、充実していたからに他なりません。

2014年11月より東京大学大学院工学系研究科建築学専攻・高田研究室の

助教に着任し、研究と学生の指導に日々勤しんでおります。新しい研究室では、私がこれまで従事してこなかった研究分野や、これまでと異なる視点に立った考え方に触れることができ、新鮮で刺激的の多い毎日を過ごしております。また、研究室の窓から安田講堂やスカイツリーを眺めたり、秋には紅葉した銀杏並木と落葉で彩られた黄色い絨毯の上を歩いてみると、キャンパスライフを楽しんでおります。

これからは新しい気持ちで、これまで以上に研究と教育に励んでいきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

「初見先生に感謝する会」のご報告

平成 26 年 4 月 29 日

奥茂 謙仁（1984 年修了）

理工学部建築学科初見学教授のご退任にあたり、平成 26 年 4 月 29 日、東京都港区の国際文化会館において「初見先生に感謝する会」が催されました。この会は、初見先生の理科大における建築教育に向けた長年のご尽力に対し、関係者や教え子が一同に会して感謝することを目的に、研究室 OB 有志によって企画されたものです。

約 1 年半の準備期間に有志が集い、会の企画・準備をしたほか、時に先生も交えて「初見学研究室記念誌 1981.4 - 2014.3」の企画・編集を行いました。この冊子は、初見先生のさまざまな研究・教育活動の記録であると同時に、研究室 33 年 457 名の積み重ねた歴史でもあります。総 200 頁に及ぶ素晴らしい記念誌が出来ました。

当日は穏やかな晴天に恵まれ、来場者も 150 名を超え、

16:00 より第 1 部記念式典「最終ゼミ」からのスタート。まず先生から「世界の集合住宅」のご講義をいただいた後、先生を囲むゼミ形式で会が進められました。

歴代の助手や OB の方々に、各人が捉える初見研究室をエピソードと共に表してもらい、それを連歌形式でつないで研究室の全体像を浮かび上がらせる…という試み。各時代の空気感と共に、緩やかに歴史が結ばれました。

記念写真の後、会場を移して行われた第 2 部は、お酒や料理を交えながらの懇親会。OB の司会進行で、さまざまな方々のご祝辞やご挨拶、思い出話等が交わされたほか、有志による記念 DVD のお披露目まであり、旧交を深める和やかな会となりました。

初見先生、33 年間、本当にありがとうございました。



第 1 部 初見先生の最終ゼミ



第 1 部 全体写真

第 2 部 会場風景



第 2 部 初見夫妻



「OB と語る会」が開催されました

平成 26 年 12 月 9 日

北村研究室 助教 佐藤 利昭

17 時から定刻通りに「OB と語る会」が開催された。参加した学生は構造系に偏ったが、夢や仕事の見つけ方など、今後社会に出る学生へのエールが込められ、専門を問わず有意義な時間であったように思う。

1 人目の講演者である勝田直哉氏は、簡単な自己紹介から日頃の仕事内容の紹介として、日経ケンプラッツのウェブサイトを開覧しながら講演を始められた。「写真家・ライターという肩書きはあやしい」などと、やや自嘲気味な講演が面白おかしくあったが、入社後 10 年に渡って経験された施工管理の知識を生かして、建築写真の中でも現場写真を専門とし、それらが多くのメディアに掲載されている実績は印象に残った。また、写真家を志した経緯から、自身の夢や希望の在り方について語られ、仕事の意味を考えさせられる貴重な講演であった。



講演中の様子

をはじめ、同期の活躍を順に紹介され、ご自身を「すばぬけていない」と称されつつも、個人で事務所を主催されている実績は、学生に十分な印象を残したように思われる。大学院修了後の約 12 年間の経験を順に語られながら、その時々感じたことを学生へ率直に伝える講演は、印象的であった。

今回の両氏の講演は、ともにやや自嘲気味でありながら、学生を圧倒する実績を持っていた印象が強い。また来年度に予定される「OB と語る会」にも期待したい。



完成後にそれぞれひとの営みが展開していく鉄骨のセル



逆打・順打併用の巨大地下躯体



初のプロポーザルコンペ獲得

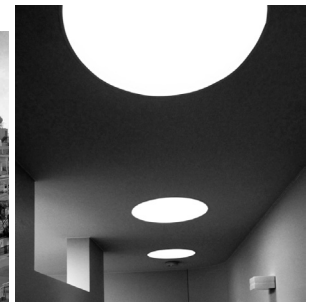


拙著文庫化しました

2 人目の講演者の加賀谷哲朗氏は、「ぱっとしない学生であった」と言われながら、学生時代からプロダクトコンペに入賞され、また、修士論文の内容が「沢田マンション超一級資料」として出版されるなど、熱心な学生生活をおくられてきたことが容易に想像された。講演のはじめには、NAA を数年に渡り支えられた、元井上研助教の小林氏（現、広島県立大学・准教授）



高知の奇跡 沢田マンション



転機となった F 保育園



勝田 尚哉 氏
(写真家)

- 1962 年 東京生まれ
- 1985 年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
(株)竹中工務店入社 生産技術系業務に従事
- 2001 年 会社内で本社・広報に異動
会社業務において建築写真撮影を行う
- 2006 年 (株)竹中工務店退職
カツタ写真事務所開設 (個人事業)
- 2007 年 株式会社カツタ写真事務所設立



加賀谷 哲朗 氏

- 1978 年 東京都生まれ
- 2001 年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
- 2003 年 同大学院修了 (初見研究室)
桑原聡建築研究所 入所
- 2007 年 修士論文を下敷きにした著書が築地書館より刊行
半年ほど実家の電材屋で倉庫番、営業、配送
- 2008 年 加賀谷建築設計 設立
- 2014 年 公共プロポーザルコンペ初獲得 (協同設計)
- 2015 年 前掲書がちくま文庫より 1 月に刊行予定
生活信条：やさしさ・思いやり・知性・教養

研究室 OB 会特集

野村研究室・衣笠研究室 OB 会「2014 でんろく会」

平成 26 年 11 月 15 日



建築学科 教授 衣笠 秀行 (1990 年博士課程修了)

2 年に一度の”でんろく会”が 2014 年 11 月 15 日土曜日の午後 5 時から 60 名の出席者をもって開催されました。野村先生から開会のご挨拶を頂き、土屋三智雄さん (S45 年卒) の乾杯で会が始まりました。”でんろく会”は、野村研究室と衣笠研究室を卒業した約 500 名 (野村研 320 名：衣笠研 180 名) の OB で構成される同窓会です。



野村先生のご挨拶



会風景

会の途中のスピーチでは、富山県からご出席の上井宏一さん (S52 年卒) や大阪からお見えの樋上雅博さん (S53 年卒) など多くの皆様からそれぞれの近況についてスピーチを頂きました。日頃の苦労話やご活躍ぶりを力強くまたユーモラスに話して頂き大変盛り上

がりました。また、新会員 (衣笠研の大学院生・卒研生) 18 名も一言ずつ緊張の面持ちで自己紹介、多くの先輩に囲まれて心強く感じたに違いありません。

会の締めくくりは、記念写真撮影と菊地利武さん (S45 卒) による閉会のご挨拶です。”でんろく会”は今後も 2 年おき (西暦偶数年) に開催される予定です。次回は東京オリンピックを 4 年後にひかえた 2016 年 11 月。卒業生の皆様、次回は是非ご参加下さい。



集合写真

永野研究室・旧井口研究室第 1 回合同 OB 会「なみの会」

平成 26 年 9 月 20 日

涌井 栄治 (1985 年卒)

永野研究室と旧井口研究室の第 1 回合同 OB/OG 会「なみの会」が 2014 年 9 月 20 日 (土)、神楽坂の森戸記念館にて開催されました。永野研究室は 2008 年に井口先生の研究室を引き継ぎ、理工学部建築学科で地震工学系の研究室として立ちあがりしました。会の名前にある「なみ」とは地盤や大地を意味しており、「なみ」だけで地震を意味するという説もあるようです。また、第 1 回なみの会の開催に先立って、7 月には会の案内冊子を作成し OB/OG に発送しました。

第 1 回なみの会は、現在・過去・未来の「人」と「技術」の継承を目的とし、第 1 部の研究会、第 2 部の懇親会の 2 部構成 (各 2 時間) で開催されました。第 1 部の研究会は、初回であることから、井口道雄名誉教授、永野正行教授、肥田剛典助教、佐藤利昭助教より発表がありました。現永野研究室学生や設計・研究系の OB/OG の聴衆が集まる中、井口先生からは近況報告と有効入



第 1 部 風景

力動の話、永野先生からは永野研究室にて行われている活動報告など、技術をつなぐ良い機会を得る事ができました。第 2 部の懇親会では、井口研究室の第一期卒業生から永野研究室の現学部 4 年生まで (計 60 名弱) の幅広い人が一同に会しました。出席者各人からの近況報告などがおこなわれ、人と人をつなぐ良い機会となりました。最後に記念写真撮影をし、第 1 回なみの会は大盛況のうちに終える事が出来ました。

次回なみの会は 2015 年 9 月に開催予定です。より多くの卒業生のご参加をお待ちしております。



第 2 部 風景 (集合写真)

武田研究室 OB 会「たけのこ会」について

瀬沼 央（1978 年卒 2009 年博士課程修了）

38 年間に亘って、理科大での教育・研究にご尽力された武田仁先生が平成 22 年 3 月にご退任されました。その後、7～8 名の OB 会立上げメンバーにより東京理科大学武田研究室 OB 会「たけのこ会」が発足しました。

卒業生数 528 名の大所帯で、武田先生のご退任時に最終講義と退任記念懇親会を行うにあたってまとめた卒業生名簿により運営されています。最初に「たけのこ会」ホームページを立上げ、武田研卒業生に ID が送られました。

第 1 回の「たけのこ会」総会が平成 23 年 2 月 12 日に開催され、現在までに総会が 5 回、セミナー & バーベキュー大会が 3 回開催されました。「たけのこ会」総会は年に 1 回行なわれ、

名誉会長の武田先生と 8 名の役員により、卒業生の中から大いに活躍し社会に貢献した人が選ばれ、表彰式で賞状・メダル・金一封が授与されます。同時に受賞者による記念講演（「人生を振り返った回顧録」「建築学会賞を受賞した研究内容の紹介」等）が行われます。

また、武田邸の敷地内には母屋とは別の建物が建っており、過去 38 年間に卒研がまとめた卒業論文が全て収納されており、誰でも閲覧出来る様になっています。

総会、記念講演、バーベキュー大会等の様子をご紹介します（以下、写真にて）。今後は、若い卒業年度の卒業生の参加も期待しています。



第 1 回「たけのこ会」総会



第 4 回総会 表彰式



第 4 回総会 記念講演



バーベキュー大会

奥田研究室 OB 会

平成 26 年 10 月 25 日

佐久間 達也（1995 年修了）

2014 年 10 月 25 日に奥田研究室の OB 会が北の丸公園内で開かれました。野外でのピクニック形式を始めてから今年で 3 回目となります。過去 2 回は代々木公園で行いましたが、今年は Dengue 熱による閉鎖により場所を変更しました。



ピクニック形式の OB 会

私自身は学部 4 年生・修士 2 年間・助手 5 年間、合計 8 年間奥田研に所属していましたので、このような会での夏合宿などの思い出話になると、どの世代でどのような出来事があったのか記憶が曖昧になってきているものの、嬉しさや懐かしさを感じます。

今年の参加者の中には、在学時に同じ研究チームで修士 2 年と学部 4 年生の間柄だった者同士が一組ありました。1996 年頃より個人で作業を行う修士設計が導入されましたが、それまでは多くの人が、論文のテーマのもとに先輩と後輩が向き合って打ち合わせしたり作業したりという過程を経ていると思います。古臭いかもしれませんが、先輩後輩の間柄で蜜に数ヶ月間を過ごした記憶は、卒業後もずっと消えることはありません。内

面が成長できる貴重な経験だったのではないかと考えています。

奥田研究室は、奥田先生が 2011 年 3 月に退職されるまで約 35 年間の歴史がありました。今年は連絡が上手くいかず参加者が少数だったものの、1989 年卒から 2007 年卒までの幅がありました。奥田先生から現在大田区で取り組んでいる活動のお話があったり、建築に進学した大学生のお嬢さんを同伴しての参加者があったりと話題に事欠かず、打ち解けた充実した時間を過ごすことができました。



集合写真

「西日本 OB の集い」に参加して 平成 26 年 9 月 13 日

山崎 晃弘 (1976 年卒)



井口名誉教授

9月13日(土)、大阪・阪急ターミナルスクエア17で行なわれた「東京理科大学 理工・建築 西日本OBの集い」に参加したことの報告です。

高橋和雄(1972年卒)はじめ、森下誠(1974年卒)、古谷行則(1976年卒)、宮宅勇二(1976年卒)、藪内昭男(1977年卒)の発起人5名(以上敬称略)のご尽力により、井口道雄名誉教授ご出席のもと、参加者20名により滞りなく開催されました。

会の趣旨は、文字通り西日本のOBの結束を強めることですが、将来に向けて建築に限らず土木も含めた広い視野に立つという点が大いに注視されるようです。

野田建築会からは、涌井栄治と高安重一(以上敬称略)、私の3名が参画し、来たる2017年の理工学部50周年事業への協働を要請し、今後の協力関係を築きました。

以上、甚だ簡略なコメントですが、こうした活動の報告を随

時発信しますので、皆様から貴重なご意見などをお寄せいただければ幸いです。

なお、集合写真を添えましたので、ご覧ください。



【訃報】

内藤勝さん 2014年10月1日逝去

1981年卒(上原研:株式会社ラカンデザイン研究所)

田中雅人さん 2015年1月14日逝去

1986年卒(奥田研:株式会社大林組)

※NAA会報では知り得るなかで亡くなられた同窓生をお知らせしています

NAAからのお知らせ

【会費納入のお願い】

理工学部建築学科の卒業生は6000人を超え、野田建築会は平成10年に発足後、17年が経過しました。以下の通り、当会の様々な活動の中心は会報の発行で、卒業生全員にお送りしたいのですが、現在では会費を納入したことのある方に限定させていただきます。

これらの活動を支えているのは献身的に協力していただいている教職員の方々と当会幹事の皆様で、活動での必要な資金は会員皆様の会費で賄われておりますが、近年会費を納入していただく卒業生が減少し、現在では、毎年の新卒業生約120名と卒業2年目以降の会員150~180名ほどの300名弱の会費納入会員が支えている状況です。

今後は、発行について部数の制限を検討しております。

については、卒業生の皆様には、野田建築会の活動にご賛同いただき、是非とも会費を納めていただきたくお願いする所存でございます。

野田建築会 会長 五十嵐洋也(1978年卒)

NAAでは会則により、2015年度(2015年4月1日~2016年3月31日)の普通会員年会費として3,000円を徴収しています。これらは会報の発行、OBと語る会の開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。

(振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

【編集後記】

本号では、研究室OB会を特集としてたくさん取り上げ、多くの卒業生の方にお伝えしました。

各研究室ばかりでなく、各年度の同期会などの催しをお知らせいただければ、その模様を会報に掲載いたします。

同期会も実行には苦勞が伴いますので、来たる2017年の理工学部50周年の際には、各年度の同期会が行われる企画も検討中です。その節には、皆様からのご協力を仰ぎたくよろしくお願いいたします。

(山崎晃弘 1976年卒)

11月に開催した現場見学会では、個人単位ではなかなか入る機会がない大規模建築の工事現場を、担当の方に案内して頂けるといって、とても贅沢で貴重な機会となりました。

このような見学会やOBと語る会等の開催のお知らせは、年2回の会報ではご連絡が間に合わないため、主にメールマガジンを通して広報しています。

まだ登録されていない方は、是非下記のホームページからメールマガジンに登録することをお勧めします。

また、OBの方達の完成見学会や講演会などの情報をこのメールマガジンで配布することもできますので是非ご活用下さい。

楽しい情報をお待ちしております。

(とりやまあきこ 2003年修了)

野田建築会会報 VOL.33 2015 SPRING

2015年3月1日

編集:会報部会(とりやまあきこ・山崎晃弘)

発行:東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>